

仏教と造形

信仰から考える美術史

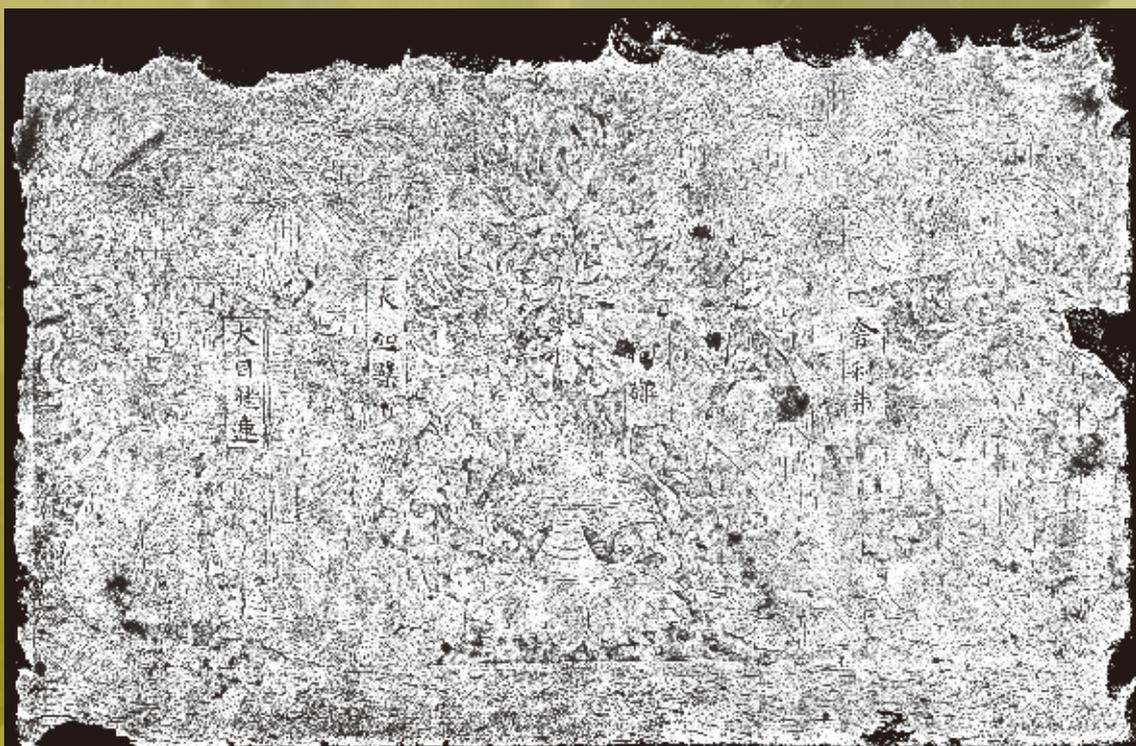
長岡龍作（東北大学教授） 著

定価 33,000 円（本体 30,000 円+税 10%）

B5 判上製函入 口絵 16 頁 本文 462 頁 ISBN 978-4- 8055-0898-5 C3071 2022 年 1 月刊

本書は、仏教美術をはじめとする作品が製作され、受容された「場」までを考察の対象として、仏身論と表象、死後世界における祈願と造形の機能、そして古代日本における現世観と造形の役割、という三点の関心に応じて執筆された論文よりなり、三部で構成されている。

人間の宗教的営為の中で果たす造形の役割を明らかにし、造形という具体的な素材の背後にある人間精神を問い直そうという試みである。



舍利石函 身北面 拓本 陕西省耀州市神德寺址出土

目次概略

序章

第一部 仏教思想と表象

第一章 仁寿舍利塔の思想と舍利容器

第二章 清涼寺釈迦如来像と北宋の社会

第三章 古代日本の生身観と造像

第四章 高清水善光寺阿弥陀如来像と中世の生身観

第二部 他界観と造形

第一章 「奉為の造像」論―主体・祈願・表現

第二章 仏像をめぐるいとなみ―上代法隆寺を場として考える

第三章 蓮華蔵世界と観音―草創期東大寺の観音像

第四章 蓮華蔵世界と正倉院の屏風

第五章 阿弥陀図様の継承と再生

第六章 古代日本の兜率天往生の思想と表象

第三部 現世で働く彫像

第一章 古代日本における天の意味と造形

第二章 悔過と仏像

第三章 神護寺薬師如来像の位相

第四章 神像成立に関わる一考察―古代日本の八幡神

あとがき

索引

【著者略歴】 長岡龍作 (ながおか・りゅうさく)

1960年弘前市に生まれ、札幌市で育つ。北海道立札幌南高校、東北大学文学部東洋日本美術史専修卒業。東北大学大学院文学研究科博士課程後期退学。東北大学文学部助手、東京国立文化財研究所主任研究官を経て、現在、東北大学大学院文学研究科教授。

主な編著書に、『講座日本美術史4 造形の場』（東京大学出版会 2005年）、『日本美術全集2 法隆寺と奈良の寺院』（小学館 2012年）、『仏像―祈りと風景』（敬文舎 2014年）、『仏教美術論集5 機能論―つくる・つかう・つたえる』（竹林舎 2014年）、『平泉の文化史3 中尊寺の仏教美術』（吉川弘文館 2021年）がある。

関連書籍

第24回（2012年）國華賞受賞

初唐仏教美術の研究

肥田路美 著

定価 33,000円（本体 30,000円＋税）

わが国の精神史と造形文化の形成に絶大な影響を及ぼした中国初唐時代の仏教美術に関する総合的研究。初唐時代に展開した仏教美術の性格と歴史的意義をこの時代を特徴づける大きな観点とし、作品の現地調査と仏典・石刻史料などの文献資料の実証的検討を通して、多角的な視点と方法論で初唐仏教美術の全体像を明らかにした労作。

B5判上製函入 本文 502頁 ISBN 978-4-8055-0677-6

第31回（2019年）國華賞受賞

仏教彫像の制作と受容 平安時代を中心に

奥 健夫 著

定価 19,800円（本体 18,000円＋税）

像の形だけではなく、用材、造像技法など彫像を構成する様々な要素に注目し、平安時代を主体とする彫刻史を展望する。仏像が制作のみならずその受容も含め、多様な展開を遂げたことへの再認識を緻密な検討をふまえて考究する。

A5判上製函入 本文 728頁 口絵 16頁 ISBN 978-4-8055-0872-5

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い